

スマートフォン貸与によって派遣社員のフォローアップ 充実と定着率向上を図る コプロ・ホールディングスの新たな挑戦

建設業へのアウトソーシング事業で急成長を遂げているコプロ・ホールディングスは、派遣社員全員に SandBlast Mobile を搭載したスマートフォンを貸与することで、企業としてのさらなる飛躍を目指します



概要

株式会社コプロ・ホールディングス

株式会社コプロ・ホールディングスは2006年に創業し、建設業へのアウトソーシング事業をメインビジネスとして大きな成長を遂げている企業です。日本国内に20カ所以上の支店・サテライトオフィスを有し、全国規模で事業を展開するほか、シンガポールに現地法人を設立し、ASEANでの事業展開にも着手しました。また、2020年9月には東京証券取引所市場第一部ならびに名古屋証券取引所市場第一部に株式上場を果たすなど、より企業価値を重視した経営を進めています。同社の事業方針の特徴は、綿密なサポート体制を用意し、常に優秀な人財の育成に努めている点にあります。派遣されるエンジニアのために各分野の講師を揃えた教育施設を自社運営し、さらに3カ月に一度定期的な研修を行うなど、社員が常にスキルアップできるような教育プログラムを実施しています。

ビジネス課題

派遣業界に新風を吹き込むスマートフォン貸与

コプロ・ホールディングスが大きな成長を遂げた要因の一つは、独自の採用・教育システムの確立により、継続的に優秀な人財を派遣している点にあります。同社で情報システムを担当する管理本部 IT戦略部 BPR推進課 主任の若子遼氏は言います。

「従来、人材派遣ビジネスは社員の定着率が低く、さらに建設業は危険で長時間労働も多いというマイナスイメージがありました。そのような実情を打破しようと、当社は設立以来、IoTを積極的に導入しながら、優秀な人財の育成と職場環境の改善に取り組んできました。」

同社では、特に新卒採用に力を入れており、選考の際に適性検査を行い、蓄積された既存社員のデータをもとにした独自の選考基準で採用プロセスを進め、入社後のミスマッチを軽減しています。

「市場価値が高く、プロジェクト現場ですぐに通用する人財を育てるのが当社の使命です。そのためにできる限り精度を高めた選考を行い、入社後は本人の成長を最大限に支援していけるようなフォローアップ体制を組んでいます。」

プロフィール

株式会社コプロ・ホールディングスは建設エンジニア・プラントエンジニアのアウトソーシング事業をメインビジネスとして急成長している上場企業です。社員の採用・教育に力を入れることにより、優秀な人財の育成と定着率の向上を図っています。

課題

- 派遣業界での定着率の低さを改善し、常に優秀な人財を派遣するための対策が必要だった
- 人財育成と定着率向上をねらい派遣社員全員にスマートフォンを貸与する計画が立てられたが、セキュリティとユーザビリティの両立が難しかった

ソリューション

- SandBlast Mobile

導入効果

- 派遣社員の労働時間をリアルタイムで把握することにより、早期に長時間労働の是正を行い、産業医との面談もスムーズに行えるようになった
- セキュリティへの社員の意識が高まるとともに、職務に集中できる環境が生まれた
- タイムリーに社内情報を閲覧でき、フォローアップ部署との連絡が密にできるため、派遣先でも安心して業務を進められるようになった

“サイバー攻撃の脅威が増す中で、どのようにIoTを活用していくのかという課題に私たちは日々向き合っています。情報システムに携わる者は、モバイル・デバイスの利便性と安全性をどう両立させるかという非常に今日的で困難なテーマに直面しており、この難題の最適解の一つが SandBlast Mobile なのです。”

株式会社コプロ・ホールディングス

管理本部 IT戦略部 BPR推進課

主任 若子遼 氏

新たな挑戦を続ける同社が2019年9月より取り組み始めたのが、派遣社員全員に対するスマートフォン貸与です。

「人材派遣会社が派遣社員全員にスマートフォンを貸与することはまれで、建設派遣業では初めてのケースです。2019年度は2000台の貸与をし、今後さらに増やしていく予定です。スマートフォン貸与のメリットはいくつかありますが、まず勤怠管理を徹底することで、長時間労働の是正など働き方改革を行えること。また、どこの現場にいても手軽に産業医と面談できますし、常にフォローアップ部署と直接コミュニケーションできるので仕事の悩みや不安を早期に解決することも可能です。こうしたことが総合的にうまく機能していけば、スキルアップ、定着率の向上が図られます。」

ソリューション

スマートフォン導入のハードルを越える

しかし、この先進的な取り組みは決して順調な道のりではなかった、と若子氏は述懐します。

「当社にはベテラン世代のエンジニアも数多く在籍しています。普段スマートフォンを使っていない社員も一定数いるので、まずその方たちへスマートフォンの使い方をフォローすることから始めました。マニュアルを作り、想定問答集も含めて各エリア担当者に配布。その後の状況を確認しながら細やかな対応を心がけました。最初は面倒がって使ってくれない社員もいたのですが、今ではほぼ問題なくスマートフォンを使った業務のやり取りができています。」

そして、最も神経をくだいたのがサイバー攻撃の脅威対策だと言います。

「近年はモバイル・デバイスを経由したサイバー攻撃が多様化しており、不正なWi-Fiによる攻撃やフィッシングメールなど、情報漏えいのリスクは高まるばかりです。自社のみならず、一瞬にして関係先の企業へも被害が及ぶ可能性があるため、万全のセキュリティ対策を講じることは必要不可欠です。」

ただ、そこで課題となるのは、とすればセキュリティ対策とユーザビリティが反比例してしまうことです。



「セキュリティのために操作が複雑になれば、使用頻度が少なくなり、スマートフォン貸与の効果が見込めないという本末転倒な事態にもなりかねません。たとえば、フィルタリングとセキュリティが別々のツールだったり、さらにフィルタリングそのものが専用のブラウザを介さなければ実行できなかつたりするのは非常に不便です。手元に届いてすぐに使えるようなスマートフォンでなくては意味がないのです。」

このような状況下、様々な選択肢の中から若子氏が選んだのはCheck PointのSandBlast Mobileでした。

導入効果

ワンオペレーションで複数の課題を解決

今日的な課題としてサイバーセキュリティに関する最新情報に気を配り、脅威への対策に心を砕いてきた若子氏ですが、今はIoTの使い方が試されている時だと言います。

「便利なものはためらわずに積極的に使おう、という空気から、油断すればとてつもない脅威になると認識されてきたのが昨今のIoTの状況です。利便性を捨てずに、どうやって万全のセキュリティ対策を講じるのか、IoTを活用する側の能力が試されていると思います。」

今回のプロジェクトでSandBlast Mobileを選んだのも、最善のIoTの使い方を考慮した結果だと言います。

「UEM（統合エンドポイント管理）でデバイスの管理が可能になっても、モバイルの脅威対策としては不十分です。UEMにMTD（モバイル脅威対策）を連携させる必要があるのですが、2つのアプリケーションがそれぞれ機能している状態ではどうしてもユーザビリティやパフォーマンスの低下はまぬかれません。ところが、SandBlast Mobileはフィルタリングを始めとしたブロック機能のカテゴリも多く、最高水準の脅威検出率を実現するなど、モバイルの脅威対策を全て備えながら、クラウド上の分析エンジンを使うことにより、軽い操作性を実現している。しかも、UEMと連携しながらDashboardで直感的に一元管理できるのです。何かを優先して何かを犠牲にするという選択肢ではなく、まさに利便性と安全性を同時に実現できるソリューションだと思っています。」

“人財育成に力を入れ、職場環境の改善に取り組んできた当社にとって、派遣社員全員へのスマートフォン貸与は大きな挑戦であり、変化していく業界への一つの意思表示だと思っています。そこにSandBlast を選択できたことはプロジェクトにとって大きなメリットとなりました。”

株式会社コプロ・ホールディングス

管理本部 IT戦略部 BPR推進課

主任 若子遼 氏



新しいスタンダードを目指して

コプロ・ホールディングス様へのスマートフォン納入を担当させていただいています。業界初の先進的な挑戦に携わせていただくことは、私どもの大きな誇りであり、モバイル・デバイスのより効果的な活用という点において学ばせていただくことの多いプロジェクトです。コプロ・ホールディングス様は妥協をせず、より有益な対策を求められますし、当社もそれに対応できるよう最新の情報提供や価値ある提案をしていけるよう努力しています。本プロジェクトでSandBlast Mobileが実効の高いソリューションとして認められたことは、私どもにとって大きな自信であり、今後もご期待に添える提案ができるよう奮励してまいります。

株式会社ティーガイア

東海支社 ソリューション営業部
営業第2チーム

五泉 陽子氏

スマートフォンを貸与して派遣社員の動態管理をし、スキルアップとともに定着率の向上を目指すという業界初の挑戦は始まったばかりですが、若子氏は個々人の意識の変化を実感しています。

「数値的なエビデンスをもってスマートフォン貸与の効果を計るのは少し先になるかと思いますが、日々社員の意識が変化してきたのを感じます。PCのユーザーに比較するとモバイルユーザーはセキュリティに対する意識が低いと言われますが、貸与されたスマートフォンを使用するにつれ、明らかな変化が現れてきました。フィルタリングを通じて業務に必要なサイトとそうでないサイトの区別が認識されてきたり、セキュリティ上危険な操作も自覚できるようになりました。最近では、こういう使い方は良くないですね？と確認されることも多く、セキュリティに対する意識の高まりを感じます。」

また、スマートフォンで管理することでより業務に専念しやすい環境も整いつつあるといいます。

「必要な時に必要な部門とコミュニケーションできるツールがあるという安心感と、すべての職務を管理されているという適度な緊張感で、業務に専念するという良い作用を生んでいるのだと思います。これが生産性アップという効果につながっていけばと考えています。また、2019年より2000台の貸与を行ってききましたが、今後さらに台数を増やしていく予定です。機能面に関しても、現状で満足することなく、改良すべき点をクリアにして、常にブラッシュアップを図っていきます。また、自社開発した社内専用のアプリの運用を始め、さらに便利に使える機能を精査し導入していきたいと思っています。」

明確な意図を持ってスマートフォンを派遣業務に活用しているコプロ・ホールディングス。このスタイルが新たなスタンダードとして定着する日も遠くないのかもしれませんが。

